ソマリアへの帰還のため集まった人々。バスでソマリアへ帰還します。

準備した資材一式はロバの馬車によって運ばれる。

PWJにより加工され、カンビオスからハガデラへの移住者に配布される木材。

ASSIST AFRICA

アシスト南スーダン!

今、世界でもっとも多くの国内避難民・難民を抱える南スーダン。その現状が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られている。未知の国・南スーダンで何が起こり、今どうなっているのか? タウトク編集部では、NGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、南スーダンが抱える問題を少しずつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円を、南スーダンをはじめアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!

世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動ルポ」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました!
左のQRコードからアクセスしてみて!
http://www.peace-winds.org/m/

タウトクでは毎号、南スーダンの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク3月号の販売部数

6,445部×3円=19,335円

を支援金としてPWJを通じ南スーダンの国内避難民・難民支援事業に送りました。

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ

タウトク

medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

世界最大の難民キャンプ、閉鎖のニュースから約1年。難民の今は…

2016年5月、ケニア政府は、30万人を超えるソマリア難民が居住する世界最大の難民キャンプであるダダーブキャンプを2016年11月に閉鎖すると宣言し、世界を驚かせました。この発表は、ダダーブでこれまで難民への仮設住宅支援を行ってきた私たちピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動にも大きな影響を与えました。

2016年後半、閉鎖の発表を受けた私たちは、これまで継続していた仮設住宅支援に加え、ソマリアへ帰還する難民が一時的に寝泊りできる場所(トランジットセンター)の増設と改築を、国連難民弁務官事務所(UNHCR)と共に行いました。また、ソマリア人以外の難民はダダーブキャンプから700kmほど離れた、同じケニア国内のカクマ難民キャンプへの移住を余儀なくされており、彼らの移動を管理するため、ダダーブにある滑走路の横に事務所を建設しました。

PWJによって増設、改築されたトランジット・センター。ソマリアへの帰還を待ちます。

今年4月、5つの地区から構成されているダダーブキャンプのうち、人口の最も少ないカンビオス地区の閉鎖が決まり、カンビオスにいた難民はハガデラという別の地区への移住することになりました。この時、PWJはハガデラの区画整理と、移住者への仮設住宅建設資材の配布を担当しました。ダダーブのスタッフは当時をふりかえって次のように話します。「PWJは今回の移住に大きな役割を果たしました。政府からUNHCRへ、UNHCRからPWJへ、全てのカンビオスの難民を2週間以内に移住させるようにプレッシャーがかかり、私たちは週末も含め休むことなく働きました。移住する全ての難民が安心して寝泊りできるよう、建設資材の配布に全力を尽くしたのです」。

一方、ケニア高等裁判所は、「ダダーブキャンプの閉鎖は違憲である」という判決を下しています。憲法や国際法のもと、ケニアは人々の人権を守る義務があるということを、この判決が訴えたのです。しかしケニア政府は、控訴こそしなかったものの、依然、難民のソマリアへの帰還、ソマリア国家建設を推進しています。実際、カンビオス地区は4月に閉鎖され、もう一つのIFO2という地区も統合される形で9月に閉鎖される予定です。

担当したPWJスタッフは、移住する難民が直面する苦難について以下のように話します。「一つ目に、難民は提供された資材を使って難民自身で住む家を建てる必要があるのですが、移住は短期間で実施され、住宅を建設する十分な時間が与えられませんでした。そのため、建設が完了するまでは仮の家屋を建てて寝泊りしなければならず、子どものいる世帯やお年寄りにとっては特に大変です。二つ目に、カンビオスから1,300世帯がハガデラに移住しており、学校やトイレ、水場などが足りていないのです」。

ダダーブの閉鎖発表から約1年。難民の方々は、常に先の見えない不安な日々を過ごしてきました。そして、約1年が経った今でも、状況は一向に改善の兆しを見せません。祖国から逃れ、長年にわたり厳しい生活を強いられてきた難民の方々に、1日でも早く平和の風が訪れるよう、私たちピースウィンズ・ジャパンはこれからも活動を続けていきます。

報告:ケニア事業駐在員　ギタウ明香

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。